

授業科目(ナンバリング)	生活支援技術ⅡA(介)(DB101)			担当教員	浦 秀美		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・前期	必修・選択	選択 (介護必修)
授 業 の ね ら い							アクティブ・ ラーニング の 類 型
<p>本演習では、介護を必要とする人がどのような状態であっても、尊厳の保持の観点からできるだけなじみのある環境で日常生活が送れるようにするために必要なことを考えていく。そこで、その人の自立・自律を尊重しながら、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて支援を検討する。そして、その人の生活を重視し、幅広く生活上の援助ができるよう基礎となる家事援助の技術を習得する。同時に、その人らしく生きるための生活環境づくりをすることで、生活の楽しさや生活の支障の解決についてともに分かち合うことができるようになることも併せて本演習のねらいとする。そして、<u>自立支援、生活の豊かさについて考え、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得していく。</u></p> <p>本演習を受講することで、本学のディプロマポリシーでも示されている(介護福祉士としての)専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとしたい。</p>							②⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援の範囲や支援方法、留意点や着眼点について説明できる。</li> <li>利用者の状況・状態に応じた被服のあり方を説明できる。</li> <li>基本的縫製技術に基づき、利用者の状況・状態に合った被服の工夫について説明できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験</li> <li>作品</li> <li>小テスト</li> </ul>	40% 20% 5%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の状況・状態に応じた被服のあり方を類別できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート</li> </ul>	5%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>時代の流れによる家族生活の変化について討議できる。</li> <li>生活支援のあり方について討議できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度・参加度</li> </ul>	15%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の状況・状態に応じた被服を作成について他者と協調し、取り組むことができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度・参加度</li> </ul>	15%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験(40%)：筆記試験(持ち込み不可)を実施する。</li> <li>小テスト(5%)：7回目と15回目に実施する。実施後は解説を加え、模範解答をポートフォリオ等で掲載し、自己採点を行う。</li> <li>授業態度・参加度(30%)：作品完成への取り組み状況を評価する。忘れ物は減点の対象とする。</li> <li>レポート(5%)：実際に実践したことから学んだことや、支援を必要とする利用者に学んだことをどのように反映させるかについての課題を課し、提出物によって評価する。提出後は授業等でフィードバックする。</li> <li>作品(20%)：地直し・裁断・裁縫等の途中経過も評価し、併せて提出物にて評価する。完成品は返却する。</li> </ul>							
授 業 の 概 要							
<p>生活支援のための技術を学ぶ前提として、生活そのものについての理解をしていく。そして、生活を送っていく中で必要な知識と技術について学ぶ。介護や支援が必要となった利用者にとって、被服の工夫は生活のしやすさと直結することから、被服の工夫に関する知識や技術についても学ぶ(ディスカッションも行う)。また、生活には様々なトラブルやアクシデントも起こることから、トラブル防止のための知識やアクシデントに対応する技術についても学んでいく。そして、日常生活を支援するために、日常生活の延長線上にある家事援助技術について、利用者の視点で学んでいく。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：介護福祉士養成講座編集委員会(2019)最新介護福祉士養成講座6『生活支援技術Ⅰ』 中央法規出版株式会社 『くらしの豆知識 2019』国民生活センター</p>							

指定図書：介護福祉士養成講座編集委員会（2019）最新介護福祉士養成講座6『生活支援技術Ⅰ』  
中央法規株式会社  
『くらしの豆知識 2019』国民生活センター

授業外における学修及び学生に期待すること

演習は、布地、ミシン糸、裁縫道具の準備をしてください。また、ファイルも準備してください。  
介護や支援を必要とする人の生活を理解する前提として、学生自身の日常生活においても意識する必要があります。自身が家事をきちんとこなすという姿勢をもって生活することが大切です。生活というものを幅広くとらえ、生活環境の改善や援助のための技術を自分自身の生活も活用して学んでくれることを期待します。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	生活支援の理解①	生活の基本機能について学ぶ	予：家庭の機能調べ 復：家庭の役割を考える
2	生活支援の理解②	生活形成のための基本知識について学ぶ	予：「家族」「世帯」が指す言葉の意味調べ 復：家族・世帯の違い整理
3	生活支援の理解③	生活経営や管理等、生活を機能的に理解する	予：「生活管理」が指す範囲調べ 復：高齢者を取り巻く問題点の整理
4	自立に向けた家事の介護①	家事の意義や目的について学ぶ	予：デザイン案検討・イメージ図作成 復：デザイン案確定・イメージ図完成
5	自立に向けた家事の介護②	家事に関する利用者のアセスメント（ICFの視点）について学ぶ	予：布地の準備 復：支援する立場としての家事の整理
6	自立に向けた家事の介護③	利用者が家事に参加することを支える工夫（意欲を引き出す働きかけ等、裁縫）について学ぶ	予：佐世保市ゴミ捨て調べ 復習：裁縫技術確認
7	1～6回目内容小テスト 自立に向けた家事の介護④	生活支援の理解確認の小テスト実施（解説含む） 家事の介助の技法の習得（掃除・ゴミ捨て、裁縫）	予：ミシン針と糸調べ 復：ゴミ捨て・掃除方法の確認
8	自立に向けた家事の介護⑤	家事の介助の技法の習得（洗濯・漂白・シミ抜き・仕上げ・保管、裁縫）し、演習レポートを作成する	予：洗濯の種類調べ 復：洗濯方法や漂白、シミ抜き方法の理解
9	自立に向けた家事の介護⑥	小テストを実施（範囲：自立に向けた家事の介護④・⑤授業時配布プリントを中心に） 家事の介助の技法の習得（裁縫）する	予：玉結び、玉止めの方法確認 復：小テスト復習
10	自立に向けた家事の介護⑦	家事の介助の技法の習得（裁縫）する	予：まつり縫いやなみ縫いの手順確認 復：なみ縫いやまつり縫いを布地で行う
11	自立に向けた家事の介護⑧	家事の介助の技法の習得（裁縫）する	予：縫製技術調べ 復：正確な縫製点検
12	自立に向けた家事の介護⑨	家事の介助の技法の習得（裁縫）する	予：着心地良い服調べ 復：衣服の工夫確認
13	自立に向けた家事の介護⑩	家事の介助の技法の習得（裁縫）する	予：被服制作を進める 復：被服製作の進度確認
14	自立に向けた家事の介護⑪	家事の介助の技法の習得（裁縫）する	予：進度に沿った被服制作 復：縫製確認
15	7～14回目内容小テスト 自立に向けた家事の介護⑫	30分程度の小テスト実施（解説含む） 家事の介助の技法習得演習レポートを作成する	予：作品を完成させる 復：レポート作成
16	定期試験		